

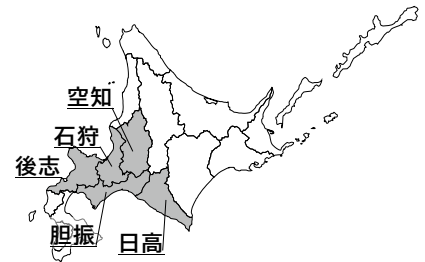
### Ⅲ 連携地域別の森林づくり

本道は、地域によって自然的・社会的な条件や生活、文化などが異なり、森林づくりにおいては、それぞれの地域特性などを十分に踏まえて、取組を進めることが大切です。

北海道総合計画の6つの連携地域別に、(総合)振興局が自ら実施する事業(地域政策推進事業)などにより地域の特性に応じた様々な森林づくりを行っています。

#### 1 道央広域連携地域(空知/後志/胆振総合振興局、石狩/日高振興局)

- ① 「空知地域林業担い手確保推進協議会」による新規就業者確保の取組(空知)
- ② カーボン・オフセットの取組(空知)
- ③ パネル展開催による地域材利用の推進(石狩)
- ④ 後志の林業・後志地域の魅力紹介動画を活用した担い手確保の取組(後志)
- ⑤ 林業担い手対策の推進(胆振)
- ⑥ 日高の林業担い手対策の取組(日高)



#### ① 「空知地域林業担い手確保推進協議会」による新規就業者確保の取組(空知)

地元の高校や林業事業体、森林組合、市町村、森林管理署などが参画する「空知地域林業担い手確保推進協議会」においては、岩見沢農業高等学校が構成員として参加していることから、森林科学科の生徒に対し、実際の林業や現場に対する理解促進を図り、新規就業者の確保につなげるため、学年に応じた取組を進めています。

1年生には、9月に、林業の現場を実際に見て、林業の体験をする「林業技術現場体験学習」を実施し、高性能林業機械やフローリング製造工場の見学を行いました。

2年生には、「空知管内林業就業セミナー」を12月に実施しました。管内や全道各地の林業の現場で働く方々の仕事の様子を紹介する講話を行うとともに、管内の林業事業体の個別説明会を実施し、それぞれの林業事業体の雰囲気に触れてもらうきっかけとしました。

3年生には、就職希望の生徒を対象に「空知管内林業就職説明会」を7月に開催し、ブース毎に林業事業体の担当者による生徒たちへの求人内容の丁寧な説明により、林業への就業促進に取り組みました。

2、3年生時のセミナーや説明会では、林業事業体に就職した卒業生が自社の業務を説明し、質問に答えるなど、より身近に林業事業体を感じられるようにしています。近年、管内の林業事業体へ就職する生徒が少しずつ増えてきていることから、このような取組を継続して行っていく予定です。なお、協議会の取組については、Facebook「北海道そらちの林業ライフ」で随時情報発信しています。

<https://www.facebook.com/hokkaidosorachisinrin>



高性能林業機械の見学



学校の先輩社員による機器操作指導

**コラム** 登録林業事業体現地研修会～伐倒技術講習会～（空知総合振興局）

空知総合振興局では、北海道林業事業体登録制度に登録している事業体を対象に、適切な森林施業と健全な労働安全衛生管理の育成を目的に例年研修会を開催しています。

令和4年度は赤平市にある歌志内市有林で、初めて実地での伐倒技術講習会を開催し、管内の登録林業事業体の伐倒手・補助者7名、事業体代表者等6名、森林組合2名が参加しました。

講習会では、労働災害の発生率が高い伐木作業に焦点をあて、林業・木材製造業労働災害防止協会北海道支部滝川分会の安全衛生指導員を講師に招き、伐倒講習を行いました。伐倒手の伐倒作業終了後、参加者全員で伐根を見ながら指導員の講話を受け、最後に、滝川労働基準監督署から講評をいただきました。

参加した伐倒手は経験年数や年齢も様々で、伐採方法や安全配慮の方法に違いはありましたが概ね問題なく作業をしていたと評価され、中には非常に模範的な伐根があり、指導員から賞賛を受けるなど、現場で作業する方々のモチベーションが上がったと感じる場面もありました。

今後も北海道の林業を牽引する登録林業事業体の健全な育成に向けて、研修内容の充実を図っていきます。



伐倒講習



安全衛生指導員による講話

**コラム** SNSを活用した林業の担い手確保への取組（空知総合振興局）

空知総合振興局では、空知地域の林業の担い手確保に向け、平成28年10月からFacebookページ「北海道そらちの林業ライフ」を運営し、林業の魅力等の様々な情報を発信しています。

令和4年度は、造林作業の軽労化に向けた自走式刈払機の使用状況や、北森カレッジ生徒のインターンシップ受入れの様子、岩見沢農業高等学校の林業現場体験学習など、幅広い地域情報を公開しました。



若手フォレストワーカーによる自走式刈払機の使用状況



高校生の林業現場体験学習



北海道そらちの林業ライフ  
こちらを読み取りください  
北海道そらちの林業ライフ  
こちらを読み取りください

## ② カーボン・オフセットの取組（空知）

道有林の整備によって発生した二酸化炭素吸収量をクレジット化して、企業や団体などに販売をするカーボン・オフセットの取組において、空知総合振興局管内では、令和4年度に新たに8件の購入申込があり、令和4年度末までに、延べ29件132t-CO<sub>2</sub>のクレジットを販売しました。

米農家が農機具などから排出される二酸化炭素をオフセットする米どころ空知ならではの事例や、建設業者が道路工事で使用する油圧ショベル等から排出される二酸化炭素を、また介護事業者が介護タクシーから排出される二酸化炭素をオフセットするなど、様々な業種の方がクレジットを購入しています（資料2-Ⅲ-1）。

森林環境保全やカーボン・オフセットなどへの関心が多種多様な企業・団体に広がりを見せており、「ゼロカーボン北海道」の実現に向けた取組が着実に進んでいます。



オフセット証明書の贈呈

### 資料2-Ⅲ-1 空知管内のクレジット購入申込者（業種）及びオフセット内容

・介護事業者	介護タクシーから排出されるCO <sub>2</sub>
・米農家	稲作の生産過程で農機具等から排出されるCO <sub>2</sub>
・喫茶店	ソフトクリーム生産過程で排出されるCO <sub>2</sub>
・ボランティア団体	遊水池河口付近の清掃活動時に排出されるCO <sub>2</sub>
・自動車レース大会（2件）	自動車レースの開催に伴い排出されるCO <sub>2</sub>
・林業を担う中核事業者	林業機械やチェーンソー等から排出されるCO <sub>2</sub>
・建設業者	道路工事現場で使用する油圧ショベル等から排出されるCO <sub>2</sub>

### コラム 全国削ろう会北海道いわみざわ大会「木育コーナー」の開催（空知総合振興局）

空知総合振興局では、令和4年10月に岩見沢市内で開催された「全国削ろう会北海道いわみざわ大会」において「木育コーナー」を設置し、木育や木材利用推進のため、木育ワークショップやHOKKAIDO WOOD・地材地消のパネル展などを行いました。

木育ワークショップは、木育マイスターによる木工体験「森の動物づくり」や、岩見沢農業高等学校森林科学科の生徒による同校演習林のトドマツ間伐材を用いたペン立てづくりやシラカンバ・クラフト製作を行いました。

大会当日は、親子連れなどの一般来場者のほか、大会参加者など100名を超える方が木育を体験しました。

初めてながらも上手に糸鋸を使う子供の姿や、岩見沢農業高等学校の生徒との会話を楽しみながらペン立てを作るお年寄りの姿などが見られました。



木育マイスターによる木工体験



岩見沢農業高等学校コーナー

### ③ パネル展開催による地域材利用の推進（石狩）

石狩振興局では、公共施設や一般住宅への地域材利用の普及・啓発を目的に、令和3年度に引き続き、石狩管内4箇所で開催しました。

展示パネルは、地域材を使うこと（地材地消）の意義や建築物の木造・木質化についての理解醸成を図るために写真を多用するなど、一般の方に興味を持ってもらえる内容としました。

8月の石狩市を皮切りに、恵庭市、千歳市（9月）、北広島市（10月）で開催しましたが、各市と連携し、道の駅（石狩市、恵庭市、千歳市）やJR北広島駅に直結する施設を会場にするとともに、各地5日間ずつ、土日をはさむ日程で開催した結果、多くの方に来場していただきました。会場に設置した展示パネルの内容に関するアンケート調査では、地域材利用に対する関心の高さを知ることができました。

また、会場では、「環境にやさしい地材地消」をテーマとした、地域材について知ってもらうためのパンフレットや道産木材ブランド「HOKKAIDO WOOD」を紹介した小冊子なども配布しました。

利用期を迎えた人工林を伐採し、建築材などに利用することや、伐採後に植林を進め、森林の若返りを進めることは、ゼロカーボン北海道の実現に資することにもなります。今後も建築材を主とした地域材利用の更なる増加・定着を目指し、地域の方々への普及・啓発活動に取り組んでいきます。



石狩市での展示状況



アンケート回答用パネル  
（シール貼付方式）

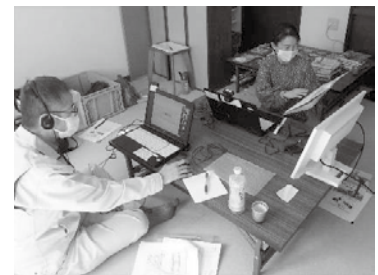
#### コラム 北海道教育大学札幌校で木育講座を開催（石狩振興局）

石狩振興局では、北海道教育大学札幌校の学生を対象に、木育への関心を広めるため、令和4年度にZOOMを活用したオンライン授業と屋外体験を組み合わせたハイブリッド型の木育講座を全3回開催し、延べ47人が受講しました。

1・2回目は、木育マイスターの活動拠点と各学生などをオンラインで結び、木育の目的や経緯、森林資源の循環利用の重要性など木育に関する基礎知識の講話、木育マイスターの活動紹介や学生との質疑応答を行いました。3回目は、札幌市の茨戸川緑地と当別町の「道民の森」で、林業と木工の体験を行い、その後、地域の歴史と森林との関わりについて知見を広めるため、月形町のスギ保護林を見学しました。

学生からは、「北海道の森林や木育に興味湧いた」「教師になった際は、授業に木育活動を取り入れてみたい」などの感想を聞くことができました。

令和4年度は、オンライン形式の採用により、授業での密集・密接を避けるとともに、移動時間を節約し、参加者の負担軽減と受講機会の確保につなげました。また、屋外の体験プログラムを提供したことにより、木育に対する理解を一層深めることができました。



講話中の木育マイスター（右）



「道民の森」での林業体験

## コラム 森林環境譲与税を活用～江別市「えみくる」に

### 道産木材を活用した大型木製遊具が完成～（石狩振興局）

江別市では、子育て世代が「子どもの遊び場の充実」を求めていることに着目し、豊かな自然環境を体感できる「都市と農村の交流センター（愛称：えみくる）」敷地内に道産木材を活用した大型木製遊具を整備しました。遊具の基本デザイン・設計は、令和3年度に石狩振興局が開催した木製遊具活用セミナーをきっかけとして、（地独）北海道立総合研究機構森林研究本部林産試験場（以下、「林産試験場」という。）の全面的な協力のもとで行われ、木材が持つ温かみ・触感を肌で感じながら遊べる工夫に加え、長寿命化を図るため、雨水の滞留や吸水を抑制する設計、接合金具を使用したハイブリット構造を採用しています。



完成した大型木製遊具

令和4年9月、石狩振興局では、管内市町村の林務・建設・公園担当者を対象に、道産木材を用いた木質構造物セミナーを「えみくる」で開催しました。江別市から遊具建設の事業概要を、林産試験場から遊具設計時のコンセプト等を解説し、実際に木製遊具を見学してもらったことで、公共建築物や遊具への道産木材の導入を考える機会となりました。



木質構造物セミナー見学会

## ④ 地域の魅力や林業を紹介する動画を活用した担い手確保の取組（後志）

地元の高校や林業事業体、森林組合、市町村、森林管理署などが参画する「後志地域林業担い手対策推進協議会」では、新たな林業担い手確保の取組として後志地域の魅力PRに取り組んでおり、取組をより効果的なものとするため、令和3年度に「しりべしの林業」、「後志地域の魅力ーしりべし時間 しりべし暮らしー」という二つの動画を作成し、様々なイベントで活用するとともに、幅広い層に後志地域で「仕事をする」「暮らす」「余暇を過ごす」イメージを持ってもらい、後志地域の移住者増や担い手確保につながるよう、YouTubeに公開しています。

「しりべしの林業」では、管内の林業作業現場の映像とともに「林業」についてわかりやすく説明するとともに、新規就業を目指す方の進路の一つとして北海道立北の森づくり専門学院（略称：「北森カレッジ」）についても紹介しています。

「後志地域の魅力」では、景観、アウトドア・アクティビティ、食や特産品などの魅力を地域の方のインタビューを交えて紹介しています。

令和4年度には、札幌新陽高等学校、ニセコ高等学校の2校の高校生に対し、森林調査や枝打ち体験、地域材利用施設の見学、木育体験などの林業体験イベントを実施（参加者計47名）したほか、「林業就業体験2022inニセコエリア」（参加者3名）では、林業への就業を考えている方に、林業の現場を体験していただき、こうしたイベントの移動時間などを利用し、先の動画を使って、地域の魅力や林業について紹介しました。

また、北森カレッジの生徒が地域実習で後志を訪れた際にも、地域への就職に関心をもってもらえるよう動画を活用して地域のPRを行いました。



林業体験イベント  
(ニセコ高等学校)



林業就業体験 2022  
in ニセコエリア



北森カレッジ地域見学実習

### コラム 倒木被害予防対策の実施（後志総合振興局）

後志地域は道内でも有数の豪雪地帯であることから、雪の重みで樹木が倒れ家屋に損害を与える場合があります。

このため、道では、こうした被害を防ぎ、道有林に隣接する土地に居住している住民の不安を取り除くため、現地の状況に応じて道有林の立木を伐採しています。

令和4年度に立木の伐採を行った箇所は、急傾斜地で、通常の伐採作業ができなかったことから、伐採作業者が立木に登って上方から伐採していく特殊伐採の方法を採用することとし、後志管内で特殊伐採作業を実施できる事業者に依頼して傾斜木の除去を行っており、こうした取組により、地域住民の不安の解消に努めています。



特殊伐採作業



伐採中の傾斜木



伐採終了後の状況

### ⑤ 林業担い手対策の推進（胆振）

胆振総合振興局では、地元の高校や林業事業者、森林組合、市町、森林管理署などが参画する「胆振地域林業担い手確保推進協議会」の取組として、厚真高等学校、穂別高等学校、追分高等学校及び壮瞥高等学校の生徒を対象に林業現場体験バスツアーを実施しました。このツアーには4校で合計63名参加し、植栽して間もない森林を見学するとともに、成長した森林での高性能林業機械を使用した伐採作業や製材工場を見学し、林業の仕事の流れを理解してもらいました。また、森林公園での昼食、枝打ち体験、胆振東部地震被災森林や北大苫小牧研究林森林情報館の見学など様々な体験を組み込むことで、林業を知らない高校生に林業の仕事のやりがいや意義、魅力を知ってもらいました。

また、林業への理解と関心を高めることを目的に鶴川高等学校の1年生と2年生合計98名を対象に、林業座談会を胆振林業青年部と連携して実施しました。振興局からは「むかわ町

の森と水の関わりと林業」について、胆振林業青年部からは、高性能林業機械による伐採作業などの動画を活用して林業について説明しました。

このほか、地域の林業・木材産業をPRするパンフレットを作成し、協議会構成員6高等学校等の生徒全員に配布するとともに、教育局と連携して管内の道立高等学校全てに配布し進路指導室などに配置していただいています。

こうした取組を通じて、地域の高校生に対し、地元の林業事業者への就職を促す取組を実施しています。



伐採作業見学 (壮瞥高等学校)



枝打ち体験 (穂別高等学校)



林業座談会 (鷗川高等学校)

### コラム 山づくり講座の開催 (胆振総合振興局)

胆振総合振興局では、森林所有者等を対象とした研修会「山づくり講座」の開催に継続的に取り組んでおり、令和4年度は2か所で実施しました。

【豊浦・洞爺湖地区】「間伐する際、どの木を伐っていいかわからない」との相談があったことから、豊浦町内の民有林グイマツ林分で「保育間伐を行う際の伐採木の選定」をテーマに研修会を実施し、地域で熱心に森林整備に取り組む森林所有者等11名に参加いただきました。

現地では林分の概要を説明した後、あらかじめ設定した標準地で「あなたならどの木を間伐しますか?」と質問し、参加者全員が1本1本を確認し選木を行った上で投票を行い、その場で結果を集計・発表しました。その後、1人ずつ選木理由(成長不良・曲がり・傷など)を発表していただき、意見交換を行いました。参加者からはそれぞれの選木理由に様々な視点からの意見が飛び交い、活発な議論となりました。

【壮瞥・伊達地区】林業後継者等を対象に10名が参加した研修会では、苗畑見学、造林地での樹種による成長や獣害発生等の比較、木質パレットプラントの見学を行い、苗木生産から育林・木材利用までの一連の流れを学びました。参加者からは「地域の状況や取組を知る良い機会になった」などの声をいただきました。

胆振総合振興局では、森林機能や森林整備に対する森林所有者の理解向上に向け、今後も普及指導活動を推進していきます。



間伐対象木の投票結果発表  
(豊浦・洞爺湖地区)

**コラム** 震災復興祈念 さくら植樹会「あの日を忘れない」(胆振総合振興局)

平成30年9月6日に発生した胆振東部地震により安平町、厚真町、むかわ町の3町で約4,300haの森林が崩壊しました。被災した森林の再生については、令和4年度から本格的に行われていますが、長期間に及ぶ森林再生を確実にを行うため、地域の理解促進や震災の記憶の風化防止を図ることが必要となっています。

このため、胆振総合振興局では、復興への思いを込めるとともに、あの日を忘れないという震災の記憶の風化防止を図るため、令和4年10月に厚真町で震災復興祈念さくら植樹会を開催しました。

厚真町長ほか地域住民やゆかりのある方々から約30名が参加し、エゾヤマザクラ30本の苗木を植えました。この植樹会の開催にあたっては、アサヒビール(株)からの震災復興に対する寄附金を活用しています。



エゾヤマザクラの植樹



保護カバーの取付



記念撮影

**⑥ 日高の林業担い手対策の取組(日高)**

「日高地域林業担い手確保推進協議会」では、労働局、教育局、林業事業体、森林管理署、町の協議会構成員が連携して、林業担い手の育成・確保に向けた様々な取組を進めています。

令和4年度は、若い世代に林業を就職先の選択肢として知ってもらうことを目的に、日高高等学校の2年生2名をインターンシップにより受け入れ、平取町と連携し、町有林でチェーンソーや高性能林業機械を活用した林業の現場の見学等を実施しました。インターンシップ後に、学生からは「山に興味を持った。未来の職業の選択肢が増えた」との感想が聞かれました。

また、浦河第一中学校が実施する「職業見学」では、2年生2名に対し、ドローン操作体験のほか、将来の就業先について意見交換を行い、生徒たちにとっては、林業の魅力や仕事の内容を知ってもらい林業・木材産業への関心を高める貴重な機会となりました。

このほか、道内外の方に日高の林業を知ってもらうため、日高振興局公式SNS(Twitter、Instagram、Facebook)により北森カレッジが実施する地域見学実習や短期就業体験研修など林業の情報や魅力を発信しました。

日高高等学校  
インターンシップ(平取町)浦河町立浦河第一中学校  
職業見学(浦河町)  
ドローン操作体験



## コラム 日高産広葉樹のサプライチェーン構築に向けた取組（日高振興局）

「日高地域森林資源持続化推進協議会」（事務局：ひだか南森林組合）では、日高産木材の有効活用を目的として、建築用材としては欠点とされている「節・腐れ・曲がり」などがある広葉樹低質材から「製材原板」を製作・販売する取組を進めています。

「製材原板」については、これまで札幌市などにおいて展示即売会を開催するなどPRを行ってきた結果、様似町にある、ひだか南森林組合事務所2階の常設展示場に遠方から足を運び、一点物を購入する方が増えるなど、広葉樹低質材に対するニーズが高まってきています。

令和4年10月には、道外におけるニーズを把握するため、大阪で開催された木材関係者が集まる展示会において、日高産広葉樹原板やカバ類の枝などを出展しました。

展示会には、全国から住宅関係企業や木材防腐加工関係企業が集まり、来場者からは、「節や樹皮のデザインを生かしたインテリアのほか、アウトドア用のテーブルや椅子などにも活用できれば」といった意見がありました。



大阪での展示会



展示された日高産広葉樹原板

## コラム 日高管内林業グループ・指導林家連絡協議会寄贈の木製品で地域材PR

（日高振興局）

日高管内の林業グループ連絡協議会（会員 5 グループ）、指導林家連絡協議会（会員 14 名）は令和 4 年度、それぞれ創立 60 周年、20 周年という節目の年を迎えました。この創立記念の一環で令和 5 年 1 月、両協議会連名で日高産木材を使った木製品が日高振興局に寄贈されました。

寄贈された木製品はテーブル 1 脚と椅子 4 脚で、テーブルは 15 cmもの厚みがある樹齢 100 年以上の広葉樹（ニレ）の原板から製作、椅子は樹齢約 60 年の様似町産スギ丸太を林業グループ員が自ら刻んだ一木造りです。

両協議会から寄贈された木製品は、地域住民等が直接見て触れることができるように、振興局玄関ホール及び森林室玄関に常設展示することにしました。これらの木製品の展示により、日高産木材の魅力を伝えるとともに、森林への関心の高まりに繋がるよう地域材PRを行っていきます。



寄贈式（日高振興局玄関ロビー）



スギ丸太（様似町産）